

ころばん体操出前講座活動報告(平成30年1月29日)

【講話】

- 1.「いつまでも自宅で暮らすために」 地域包括支援センター保健師 久保小百合
- 2.「がんばりすぎない介護を応援します」～退院支援について～
在宅医療・介護連携推進事業コーディネーター 南新敦子

参加者の声

平成30年1月17日(水)陣ヶ迫公民館 9:30～11:00(参加者9名)

- ・いつまでもこの陣ヶ迫の自分の家で住み続けて行きたいと思っています。
- ・ポッキリ逝かれると何もしてあげられなかったことが悔やまれる、それも心残りだ。しばらく見てから亡くなってほしい。(1週間、一か月くらいの期間がほしい)
- ・みんないつかは死ぬことだけど、やっぱり子供に迷惑をかけたくはない。自分は”ピンピンころり”がいいけど、そう上手くはいかない。
- ・「13年前に約10年ほど自宅で母親を介護しました。本当に一人で大変でした。寝たきりで自力排便ができずに摘便をするのが負担でした。」

一つ一つの話にうなずきながら熱心に聴いて頂きました。まだ実感がないなあという方も多い中、講話終了後に、自宅改修について聞きたかった、という相談もありました。

平成30年1月19日(金)光瀬・海土泊 9:30～11:00(参加者21名)

- ・出来るだけ自分の家で暮らして行きたいと思います。..皆さんが肯かれました。
- ・在宅医療の話は聞くことがあるが、費用について知りたい。みんな年金暮らしが多いので、施設入所と比較した場合など気になるようです。
- ・一人暮らしで子供は2人いますが男子です。自分の思いを叶えてくれるか心配です。
- ・エンディングノートを配布されたのは良かったと思います。
- ・今日の話は、これから介護をして行く若い人たちに聞いてもらった方がいいと思います。私たちはこれから介護される立場になっていく、若い人たちが聞いてくれて、自宅で看ようと思ってくれるようになったらいいです。

講話終了後に活発な質問や、思いを話していただきました。介護を受けるにあたって費用については、年金生活を送る側としては重要です。との意見や、若い人たちへの思いなど、参考となる貴重なご意見をいただきました



陣ヶ迫公民館



光瀬・海土泊